

8月2日

IKEA福岡新宮



新宮中央駅を活用した街づくりについて  
省エネ、再エネ等への取り組みについて

8月4日

HAWKSベースボールパーク筑後



福岡ソフトバンクホークス2軍本拠地による  
県南の地域振興について

8月5日

古庄和秀大牟田市議との意見交換



障害者差別解消条例について

8月24日

当別町役場



高齢者の力を引き出した共生と  
就労支援のしくみづくりについて

8月24日

サトニクラス醸房



障がい者や生活困窮者を対象とした農産品の  
生産・加工・販売における職業訓練について

8月25日

小樽市役所



地域版介護予防教室について

福岡県議会議員(大野城市選挙区)



vol.

22

# 井上ひろたか レポート

9月  
定例議会  
より

## 一般会計補正予算40億5,000万円余 防災・減災対策公共事業に32億円

### 9月定例議会報告

9月14日から22日間の日程で9月定例議会が開催されました。本定例会に提案された議案は合計25件（予算議案1件、条例議案7件、専決処分議案1件、工事請負契約議案6件、経費負担議案6件、人事議案2件、その他議案2件）で、すべての議案は最終日の10月5日に可決され閉会となりました。

補正予算は①防災減災・災害復旧、②地域活性化、に重点的に取り組むとして、40億5,000万円余が計上されました。その主なものは、緊急輸送道路の整備、橋梁の老朽化対策工事等の事業費として25億1,487万円、河川の護岸、砂防ダムの整備などの洪水被害・土砂災害防止の推進事業費7億2,268万円等です。その他として、特別支援学校を拠点とした障がい者スポーツの推進や、福岡も試合会場となる2019年ラグビーW杯および東京オリンピック・パラリンピックのキャンプ地誘致活動に関する市町村支援のための予算、本年11月に北九州で開催される、第2回世界獣医師会－世界医師会“One Health”に関する国際会議の関連経費も計上されています。

また、福岡県議会では3本目の議員提案条例となる「観光王国九州とともに輝く福岡県観光振興条例」が追加で上程・可決されています。



### 県政報告座談会のお知らせ

ご予約は不要です。どなたでもご自由に  
参加いただけますのでお気軽にお越し下さい。

11/28 月 乙金東公民館 19:00～ 12/7 水 月の浦公民館 19:00～

11/29 火 畑詰公民館 19:00～ 12/9 金 上大利公民館 19:00～

民進党・県政クラブ県議団  
福岡県議会議員

いのうえひろたか  
井上博隆 事務所

〒816-0955 大野城市上大利4-2-1 TEL.092-596-9966 FAX.092-596-8710  
http://www.inouehirotaka.com/ E-mail:inouehirotaka.onojo@gmail.com

#### 井上 博隆(いのうえ ひろたか) プロフィール

1978年 大野城市上大利生まれ  
1984年 のぞみ愛児園卒園  
1990年 大野城市立大利小学校卒業  
1993年 大野城市立大利中学校卒業  
1996年 西南学院高等学校卒業  
2002年 学習院大学法学部政治学科卒業  
2003年 大野城市議会議員  
2011年 福岡県議会議員  
2015年 福岡県議会議員二期目

#### 県議会活動

2011～2013 警察常任委員会/  
空港対策調査特別委員会  
2013～2015 総務企画地域振興常任委員会/  
景気雇用対策調査特別委員会  
議会運営委員会  
2015～ 総務企画地域振興常任委員会(副委員長)  
生涯健康安心社会調査特別委員会

#### 役職・活動歴

・民進党福岡県第5区総支部 大野城支部長  
・元大野城市議会議員 大野城市商工会青年部  
・福岡地区防衛協会青年会 大野城ライオンズクラブ  
・福岡大野城ボーイズ顧問 など

井上博隆は  
こう考える!



今 定例会では執行部ではなく議員が提案するかたちで「観光王国九州とともに輝く福岡県観光振興条例(略称:福岡県観光振興条例)」が制定されました。この条例は、昨年9月に発足し、私もメンバーの一員となっている「福岡県議会議員提案条例検討会議」初の取り組みとなります。同条例の目的は、観光振興が幅広く地域の産業に波及効果を及ぼすとともに、優れた環境や景観の形成その他社会基盤の整備を促進する等、地域づくりに寄与するものであることを踏まえ、九州各県と連携した福岡県の観光振興政策に関する基本的な事項を定め、その推進を図ることにより、世界に誇れる魅力ある「観光王国九州」とその中で光り輝く福岡県の地域ブランドを確立し、もって九州各県と一体となった福岡県の成長発展を図ることです。全国的に見ても議員提案条例検討会議のような会議体を常設化している県議会は非常に珍しいようです。議員サイドから条例案を提案するためには、十分な調査研究や法令との整合性の確保、関係部局との調整など非常に多くの時間と労力がかかります。しかし、議員の資質を向上させ、議会力を高めるためにはとても有益なことであると考えます。今後も福岡県議会として積極的な議員提案条例作りに邁進したいと考えます。

ご一報お願いします。

個人情報保護法が施行され、個人情報の管理が厳しく制限されるようになりました。その結果、事務所として冠婚葬祭における祝電、弔電などが把握できず、大変失礼をいたしております。友人、知人、親族等の冠婚葬祭等がございましたら、ぜひ、ご一報くださいますようお願いいたします。



## 第2回世界獣医師会—世界医師会“One Health”に関する国際会議とは

今回北九州市で開催される“One Health”に関する国際会議は、「One World, One Health」の理念に基づくもので、動物と人及びそれを取り巻く環境が、生態系の中で相互に連携していることを包括

的に捉え、地球的課題としての環境の保全や感染症リスクの抑制、食料の安定供給などの課題を解決し、安全で安心な社会を実現しようとするものです。世界40カ国から、約500名の医師、獣医師が一堂に会することとなっています。

井上博隆は  
こう考える!



**医** 師と獣医師がタッグを組んで取り組むことの重要性として一番わかりやすい例が、人獣共通感染症への対応です。人獣共通感染症の代表として挙げられるのはペストや狂犬病ですが、近年では鳥インフルエンザやSARS、エボラ出血熱など突然大流行を起こし、診断や治療方法が確立していないことから征圧までに長い時間がかかり、時として多くの命を落とすものが散見されています。自然界には未だに発見されていないウィルスの方が圧倒的に多数を占めると言われており、いつ動物を介して人間に新たな感染症の危険を及ぼすかわかりません。人間が健康であるためには動物も健康でなくてはなりませんし、動物が健康であるためには生態系の保全を含む美しく豊かな環境が必要となります。こうした一連の考え方を啓蒙・啓発する取り組みは非常に大切だと思いますが、本国際会議はまだ2回目であり世界的に見ても緒についたばかりです。その重要性に鑑み、「One World, One Health」の今後の進展に大きな期待と注目をしています。

一般質問に  
登壇

## 「特別支援教育の充実」に向けて

注) 特別支援教育とは、障がいのある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うものです。

平成27年5月現在、我が国において特別支援学校に在籍している幼児、児童生徒と小中学校特別支援学級及び通級による指導を受けている児童生徒の総数は約43万人であり、そのうち約91%となる約36万2,000人の児童生徒が義務教育段階にあります。

平成28年、福岡県における特別支援教育を受ける幼児、児童生徒数は、特別支援学校5,675人、特別支援学級9,059人、通級による指導を受けている児童生徒2,754人となっています。

10年前の平成18年と比較すると、特別支援学校で1,446人の増加、特別支援学級は5,864人の増加、通級指導では1,856人の増加となっており、今後も急増し続けることが予測される特別支援教育のニーズに対しては、学校生活の早い段階から効果的な対応策を構築していくことが望まれています。そこで、教育長に対して次の課題とその認識を質しました。

福岡県における特別支援教育関係  
幼児児童生徒数の10年前との比較

	障害種別	平成18年	平成28年
特別支援学校	視覚障害	141	118
	聴覚障害	292	263
	知的障害	3,001	4,350
	肢体不自由	670	848
	病弱	125	96
	合計(人)	4,229	5,675
特別支援学級	知的障害	2,456	5,594
	病弱・身体虚弱	58	53
	弱視	9	18
	難聴	32	60
	言語障害	—	—
	自閉症・情緒障害	563	3,221
	肢体不自由	77	113
	合計(人)	3,195	9,059
通級による指導	言語障害	486	759
	自閉症	—	—
	情緒障害	287	389
	弱視	1	2
	難聴	63	106
	LD・ADHD	61	1,498
	合計(人)	898	2,754

### 課題1 特別支援教育の専門性を備えた 教員の育成と確保のために

- ①教員の超多忙化・正規教員不足・担任不足の解消
- ②今後迎える経験豊かなベテラン教員の大量退職による若手教員の割合の増加や校内研修の専門性の低下への対応

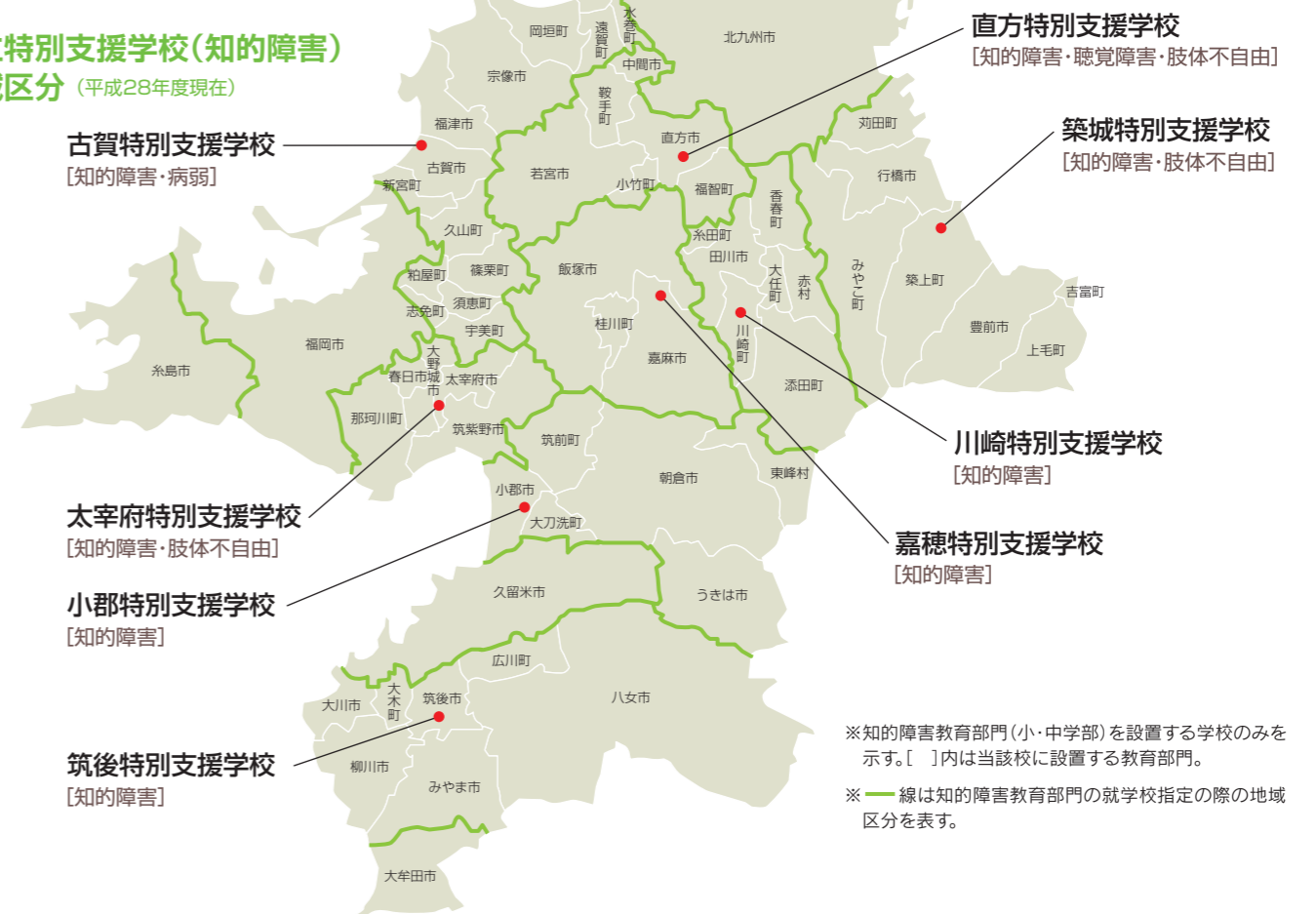
### 課題2 特別支援学校の教室不足を 解消するために

- ①太宰府特別支援学校に入学を希望する児童生徒数の急増に対応する整備
- ②糸島地区への特別支援学校の新設

### 課題3 特別支援学校の センター校的機能の強化のために

- ①特別支援学校教員の専門性の強化
- ②外部専門家との効果的な連携の必要性

### 県立特別支援学校(知的障害) 地域区分(平成28年度現在)



### 今後の方針(教育長答弁抜粋)

特別支援学校対象の児童生徒数は急増しており、過去10年間で+54.7%の増加となっており、今後10年間でさらに+28.2%の増加となる見込みとなっている。地域別に見ると、福岡地区において60%以上の増加、北九州地区及び筑豊地区で25%程度の増加、筑後地区ではほぼ横ばいと見込んでいる。現在福岡地区には古賀特別支援学校と太宰府特別支援学校があり、それ

らの通学区及び糸島市域の児童生徒を受け入れるための学校として3校の新設を考えている。

また、特別支援学校において、医療や保健、福祉等の外部専門家と連携することは、専門性のある指導体制の確立や教員の資質向上、センター的機能の充実等の面から大変有効であると考えている。今後、外部専門家の活用や連携のあり方を検討していく。

